

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 35
2019.3

TOPICS

1

平成30年度岡山大学学位記等授与式を挙行



本学は3月25日、平成30年度学位記等授与式を岡山県総合グラウンド体育館(ジップアリーナ岡山)で行い、学部生・大学院生ら計3,235人の門出を祝福しました。

式では国歌・学歌斉唱に続き、榎野博史学長が学部・研究科などの総代22人に学位記・修了証書を授与。榎野学長は式辞で「皆さんがこれから何かの課題に直面した時には、ぜひ岡山大学で修得した『課題解決の遺伝子』を思い出し、それを十分に活用していただければと思います」と述べました。卒業生・修了生を代表し、文学部のジョウシンリーさん、大学院法務研究科の岩田杏子さんが答辞を述べました。

会場の外では部活動やサークルの後輩たちが詰めかけ、卒業生に花束を渡すなど祝福しました。また、卒業生は家族や友人と記念撮影をするなど別れを惜しんでいました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8407.html



TOPICS

2

前期日程等の合格者発表を実施

本学は3月7日、2019年度前期日程試験等の合格者発表を本学津島キャンパスの掲示板で行いました。

前期日程試験では、11学部で3,154人が受験し、1,597人が合格。合格者発表では掲示板の前に大勢の受験生が集まり、自分の受験番号を見つけた受験生は、家族や友人と喜びを分かち合ったり、掲示板の前で記念撮影をしていました。また、応援団総部による合格者へのエールや、アメリカンフットボール部による胴上げなども行われ、受験生たちは喜びを噛みしめました。

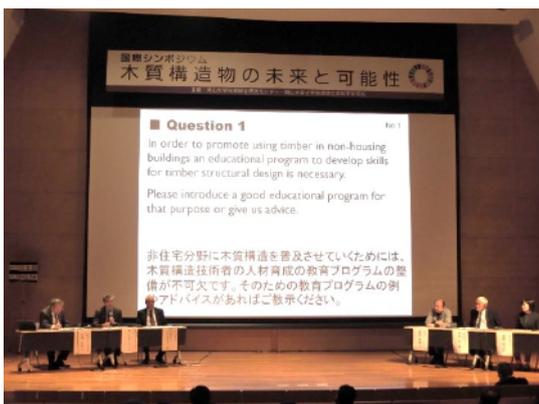
3月21日には後期日程試験の合格者発表も行われ、10学部で1,035人が受験し、294人が合格しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8380.html



最近の大学の取り組み

国際シンポジウム「木質構造物の未来と可能性」を開催



林業・林産業のさらなる発展と日本の豊かな森林資源を有効に活用する人材育成を考えるシンポジウム「木質構造物の未来と可能性」を3月8日、創立五十周年記念館で開催しました。(主催：岡山大学地域総合研究センター、大学院環境生命科学研究科)

シンポジウムでは、加賀勝副学長(社会連携担当)と三村聡地域総合研究センター長があいさつ。プリティッシュコロンビア大学のフランク・ラム教授、グラーツ工科大学のゲルハルト・シックホーファー教授、東京大学の腰原幹雄教授は、意匠性を持った建築物を可能にするとして注目を浴びている直交集成板(CLT)の重要性について講演しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8387.html

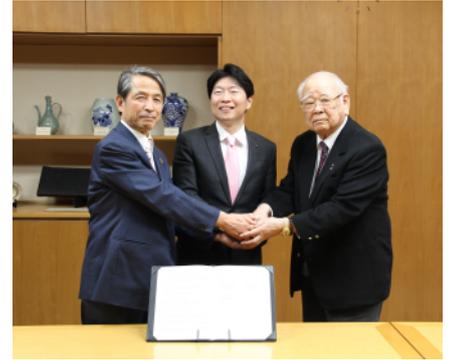


岡山県と「大学と連携した地域産業振興」に係る協力に関する協定を締結

本学は3月25日、岡山県と「大学と連携した地域産業振興」に係る協力に関する協定を締結しました。本協定は、岡山大学と岡山県が、県内企業の技術開発及び大学の教育・研究を促進するとともに地域活性化につなげることを目的とし、相互に協力していくために締結しました。

岡山県庁で行われた締結式には、槇野博史岡山大学長、伊原木隆太岡山県知事、立会人として中島博岡山県経済団体連絡協議会座長が出席。三者が協定書に署名した後、今後の協力を誓い堅い握手を交わしました。本協定に基づき、岡山県は、本事業に係る拠点を本学構内に設置。企業と大学とのマッチング支援や複数の企業及び研究者との連携構築に取り組むほか、企業人材を育てるための寄付講座の開設などを予定しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8416.html



岡山大学鹿田ピアノ部SPFによる「第1回 マリーゴールドコンサート」を開催



3月14日、岡山大学病院入院棟11階スカイラウンジで岡山大学鹿田ピアノ部SPFによる「第1回 マリーゴールドコンサート」を開かれました。

「マリーゴールドコンサート」とは、黄色いマリーゴールドの花言葉が「健康」であることから、金澤右病院長が命名しました。学生たちは「患者さんやそのご家族に演奏を届けることは、医療従事者を志す自分たちにとっても貴重な経験」と快諾。コンサートでは医学部、歯学部、薬学部の学生7人がクラシック音楽や洋画の主題歌などの曲を、ピアノやバイオリンで演奏しました。

入院中の患者さんやそのご家族、職員ら約80人が美しい音色に聴き入っていました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8403.html



PRESS RELEASE 1

米国探査機の観測データから、小惑星ベンヌの表面の様子を解析 反射度分布や粗さなど予想外の特徴が明らかに

NASAの宇宙探査機オシリス・レックスは、地球近傍小惑星ベンヌ(Bennu、101955)に到着しました。ベンヌは、初期地球に水や生命の原材料である有機物をもたらした可能性のある、始原的物体の代表的なものです。岡山大学惑星物質研究所のMatthew Izawa助教を含むオシリス・レックス研究チームは、探査機が行った初期観測の結果をもとにベンヌ表面の分析を行い、磁鉄鉱の局地的な集中や、サンプル採集を困難とする小惑星表面の予想以上の粗さなど、いくつかの予期されていなかった特徴を発見しました。本研究成果は3月19日英国時間午後5時30分(日本時間20日午前2時半)、英国の学術誌「Nature」のAdvance Online Publicationとして掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id608.html



小惑星ベンヌ

PRESS RELEASE 2

テラヘルツ波ケミカル顕微鏡を用いた 乳がん細胞の高感度検出に成功



紀和准教授

岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科の紀和利彦准教授らの共同研究グループは、テラヘルツ波(1テラヘルツ=1兆ヘルツの電磁波)を用いて、1ミリリットル中に含まれるわずか10個の乳がん細胞を高感度に検出することに成功しました。カナダのグループが開発したアプタマー(特定の細胞を認識し、結合する物質)と岡山大学の開発した「テラヘルツ波ケミカル顕微鏡」の融合により、初めて研究が成功しました。この成果により、がん早期診断に必要な新規がんマーカーの開発、新薬の開発に大きく貢献することが期待できます。本研究成果は2月15日、欧州の科学雑誌「Sensors and Actuators B」のオンライン版に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id605.html

